

るが、それは十數代になつたものを捨てるのが如何にも惜しい氣がしたからで、承知しながらも前述の飼育をつづけた次第である。

學問上の論議は改めて書くが、今は只世代數の記録を残しておくに止める。

(宇都宮高等農林學校 柴田文平)

Gambrus sapporonis クロシタアライラガに寄生す

1933 年 8 月 7 日 靜岡縣御殿場町東山に於てケヤキの大木の幹の上にとまつて産卵中の姫蜂を 1 頭獲た。幹に産卵管をさし込んでゐるやうに見えたが、實は刺蛾の繭にさしてゐたので、繭をおこして見たら中には蛹がはひつてゐた。この刺蛾は河田黨君に見てもらつてクロシタアライラガ *Parasa sinica* MOORE と判つた。

次いで同年 11 月 5 日 東京市牛込區市ケ谷臺町の自宅の庭に於て同種の蜂がカヘデの樹幹上に下向きになつて産卵中だつたのを捕へた。この時の寄主もやはり河田君に見てもらつたらクロシタアライラガで、この場合は蛹でなくて幼蟲だつた。今度は少しゆつくり見てゐたが、産卵管をさし込むのになかなか骨折つてゐて、あとで繭をおこして見たらその背面の眞中にさした跡があつた。

これら 2 頭の姫蜂は北海道帝大の内田助教授に送つて同定して頂いた結果 *Gambrus sapporonis* UCHIDA (1930) と判つた。そして内田博士に據るとまだ寄主が判つてゐなかつたさうであるから、この種の寄主は之が最初の記録である。なほ、内田博士の原記載には札幌産の 2 頭の雌が挙げられてゐるだけで、本州に産することは記してない。

蜂と蛾の同定をして下さつた内田、河田兩氏に厚くお禮を申し上げます。

(農林省農事試験場昆蟲部 湯淺啓溫)